

第6回 松原・下釜・大山ダムとともに水害に 強い地域づくりを考える意見交換会

令和8年4月26日

避難に備えた図上訓練の報告

令和8年10月23日

筑後川ダム統合管理事務所

1. タイムライン作成の目的

過去のダムサイレン等の吹鳴訓練やアンケートにおいて、次のような意見をいただいた。

■どのような状況で避難していますか？または避難すると思いますか？

- 自治会長なので地区の呼びかけ後なのでレベル3より遅くなる。
- みんなが避難する時
- 下流だから水嵩が増したら。
- 山崩れ心配ないのであんまり避難していない。
- 高齢者はレベル4でも「慣れ」から避難しない 等



緊急放流をきっかけとした避難では遅い
早目の避難が必要

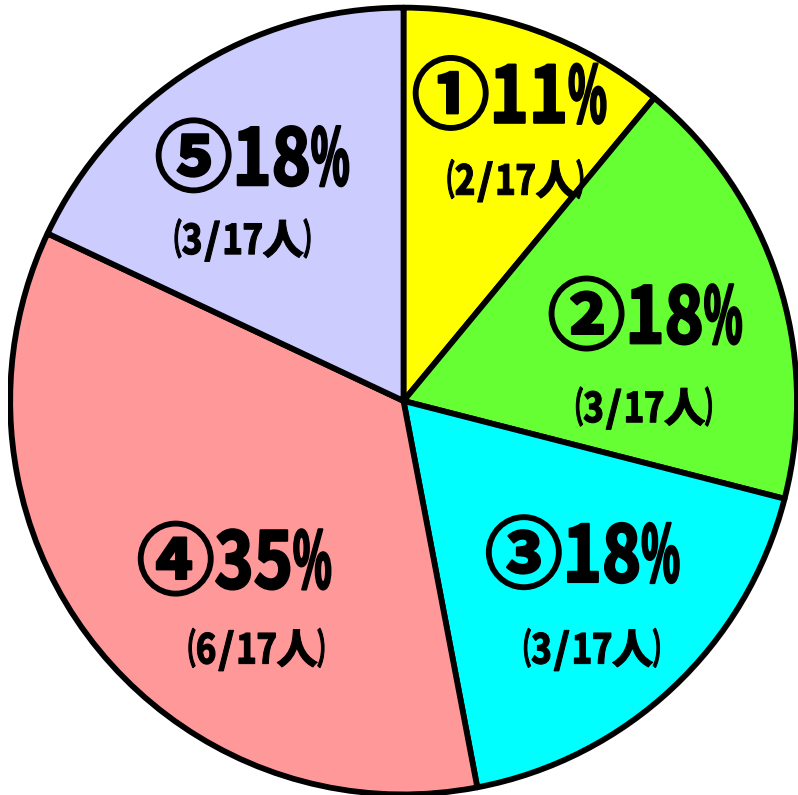


地域住民自らが避難を考えるきっかけとして図上訓練を実施し、
タイムラインを作成

■どのような状況で避難していますか？または避難すると思いますか？

- ①日田市からお住まいの地域で高齢者等避難が発令された場合〔レベル3相当〕
- ②日田市からお住まいの地域で避難指示が発令された場合〔レベル4相当〕
- ③松原ダムの緊急放流情報が入った場合〔レベル4～5相当〕
- ④日田市からお住まいの地域に緊急安全確保が発令された場合〔レベル5相当〕
- ⑤その他

令和6年のヒアリング結果



警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5 命の危険 (直ちに安全確保)	既に災害が発生・切迫している状況です。 命が危険ですので、 直ちに身の安全を確保 しましょう。	緊急安全確保 (市町村が発令) ※市町村が災害の状況を確実に 把握できるものではない等の 理由から、警戒レベル5は 必ず発令される情報では ありません。
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~~		
警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	災害が発生する危険が 高まっています。 速やかに危険な場所から 避難先へ避難しましょう。	避難指示 (市町村が発令) ※避難指示は、令和3年の 災害法改正以前の避難勧告の タイミングで発令されます。
警戒レベル3 危険な場所から 高齢者等は 避難	避難に時間を要する人 (ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその 支援者は危険な場所から 避難をしましょう。その 他の人は、避難の準備を 整えましょう。	高齢者等避難 (市町村が発令)
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマッ プ等により、自らの避難 行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めま しょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)

## 2. タイムラインとは

### ■タイムラインとは

いつ 誰が 何をするか

とるべき行動を示したものの

### ■なぜタイムラインが必要か 逃げ遅れを防ぐため



- 日ごろから、避難に備えておくことが重要であり、**タイムライン**を作って、いざという時に備え、自らの避難について考える。

### 3. タイムライン作成の概要①

参加者

山際地区	伝里地区
住民:22名	住民:28名
筑後川ダム統合管理事務所、松原ダム管理所(水資源機構) 大分県、日田市 学識者(意見交換会委員):小松委員長、山田委員、鶴成委員 大分大学学生	

山際地区



出典: 国土地理院ウェブサイト <http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html> 標高タイルをもとに編集

10

伝里地区



出典: 国土地理院ウェブサイト <http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html> 標高タイルをもとに編集

12

### 3. タイムライン作成の概要②

#### 開始前

- 午前9時頃にサイレンの吹鳴試験を実施しました。
- 市と国が連携し、サイレンに加えて、防災行政無線や防災ラジオでも緊急放流情報を伝達できるようになりました。
- サイレン終了後は、住民が山際集落センターと伝里集落センターへ集合しました。



▲山際地区の集合状況



▲伝里地区の集合状況

### 3. タイムライン作成の概要③

## 座学

- 座学として航空写真やハザードマップに基づき、CGも活用し、改めて地域のリスクについて認識を深めました。
- 山に囲まれ、雨が集まりやすく、土砂災害にも注意する必要があることを確認しました。



▲山際地区の座学の状況



▲伝里地区の座学の状況



▲CGを活用して災害のイメージを支援

### 3. タイムライン作成の概要④

### タイムライン作成状況

- タイムラインは図上訓練形式で作成しました。
- 刻一刻と変化する雨の状況や避難情報等を頼りに、参加者が話し合っ「どう行動するべきか」を考えました。
- 大分大学の学生と一緒に訓練に参加し、活発な意見交換を実施できました。



▲山際地区の意見交換の状況



▲伝里地区の意見交換の状況



▲大分大学の学生がサポート

### 3. タイムライン作成の概要⑤

## タイムライン完成

- 山際地区と伝里地区でそれぞれの地域住民が話し合いながらタイムラインを完成させました。
- 避難のタイミングは健康状態や立場(区長など)によって異なることも分かりました。



▲山際地区のタイムライン



▲伝里地区のタイムライン

- 伝里集落センターでは、大分県が導入したトイレカーを展示しました。
- 大分大学の学生もトイレカーの前で記念撮影するほど、皆さん興味をもたれていました。



▲大分県のトイレカー

## 4. タイムライン作成時の意見

【山際地区の避難に関する意見の例】

- ・**タイミングが早ければ、親戚や知り合いの安全な場所に避難する。遅れたら家の方が安全だ。**
- ・**緊急放流は避難のトリガーにはなる。**
- ・**避難を促すのは顔見知りの声掛け。**
- ・**土砂崩れの危険があるので、避難しろと言われてもその時には避難しないと思う。そもそも、避難所や避難ルートは家より危険な場所にある。**
- ・**区長と水門操作員を兼任しているので、たぶん声掛けはできない。 等**

【伝里地区の避難に関する意見の例】

- ・**家族に要援護者がいる場合は、早めの避難準備が必要である。**
- ・**どこに避難すればよいか、わからない。**
- ・**令和2年は公民館に避難した方は2～3人の記憶である。平成29年は竹が倒れて、公民館まで避難できなかった。家の方が安全ではないか。**
- ・**レベル5（緊急安全確保）であっても、昼間であれば避難しないかもしれない。夜なら避難する。時間帯によって対応は異なる。**
- ・**避難する場合は、車で10分程度の都築のコミュニティーセンターである。 等**

## 5. 訓練の成果と今後に向けて

### ○訓練の成果

- ・多くの方に緊急放流についての解説ペーパーの配布や実際のサイレンを聞いていただき、緊急放流に関する理解を深めていただいた。
- ・図上訓練に取り組むことで、地域全体で避難のタイミングについて考えることができた。

### ○今後に向けて

- ・住民が確実に避難行動をとることができるように防災の取組を継続していく。
- ・早目の避難の重要性について理解を広めていくため、今回実施した2地区以外でも図上訓練を実施していきたい。